

科目名	国際研究ゼミナール2	単位数	2単位	学期	後期
担当教員	堀川 祐里		実務経験の有無		×
科目区分	カリキュラムマップを表示する		関連するディプロマポリシー		
ナンバリング	X-21-B-1-310004		国際学部C：新潟の地域社会にあって学術的素養を日々活かす方途をたえず探索する強い意欲をもち、これを具体化していくための社会関係構築能力を獲得していること		
授業の目的・テーマ	「働く」ことから日本経済を考える				
内容	<p>皆さんに質問です。皆さんは将来、「働く」予定ですか？「働かない」予定ですか？</p> <p>おそらくは多くの方が、大学を卒業したら、ある程度の期間は「働く」だろうと予想しているのではないかと思います。それでは、その皆さんは一体、なぜ「働く」のですか？大学で身につけた知識や能力を活かしてみたいと思うからでしょうか？子どもの頃からあこがれている職業があるからでしょうか？新潟県のため、日本社会のため、国際社会のために貢献したいからでしょうか？&lt;男だから&gt;あるいは&lt;女だから&gt;働くのでしょうか？</p> <p>さらに、もう少し考えてみると、「働く」のは家の&lt;中&gt;ですか？&lt;外&gt;ですか？「働く」と言っても、会社やお店でお金を稼ぐことだけが「働く」ではないですね。皆さんはどこで「働く」ことをイメージしているのでしょうか？そして、もし「働けない」時、皆さんはどうやって生活していったら良いと思いますか？</p> <p>このゼミは「働く」ことを通して日本経済について考えるゼミです。まず、皆さんには「働く」ことについて学び、「働く」ことについての自分自身の考えを持ってもらいたいと思います。経済学や日本経済論は、“とっつきにくい” “面白くない” “退屈な” “数字ばかりの” 勉強に感じている人もいるかもしれません。しかしながら、実は皆さんの現在の生活、そして将来の生活にとっても身近なものなのです。中でも「働く」ことはこの国で生活する多くの人の人生のうちに、必ず1度はやってきます。このゼミでは、その「働く」を学んでいきましょう。アルバイトをしている皆さん、おうちでは家事をお手伝い・担当している皆さん、そして将来社会人として「働く」ことを見据えて学んでいる最中の皆さんと、「働く」とは何か、一緒に考えていきたいと思っています。</p> <p>そのうえで、日本経済を「働く」ことという地点に立って眺めてみたいと思います。日本経済の理解というと、なんだか大それたことに感じるかもしれませんが、「働く」を通して、日本経済を理解していきたいと思っています。</p> <p>このゼミでは「働く」を題材とした文献の輪読や発表から、大学での学びの基礎である、文献の読み方、アカデミックな文章の書き方、グループでのディスカッション（議論）の仕方、みんなの前での発表の仕方、また連絡手段としてメールの使い方などを身に付けてほしいと思います。</p> <p>ゼミをはじめとして、大学での学びには、答えがない問い、もしくは答えが1つではない問いがたくさんあります。また、その答えがすぐにはわからず、もしかすると大学を卒業してから初めてわかるような難問もたくさんあります。ここでは、それらに挑むための練習を行っていきましょう。</p> <p>※授業内で、数回、Webex等を用いた遠隔授業を実施します。具体的な日程は授業内で説明します。</p>				

学修到達目標	大学生としての過ごし方の基礎を身につけましょう。 主な学習方法は輪読（選定した本を履修者が順番に読んで担当箇所について発表し、分からないことについて調べ、疑問や考えを皆で議論すること）です。また、半年間を通して文章の作成、発表の練習も適宜行っていきます。このゼミでは、本の読み方、ディスカッションの仕方、アカデミックな文章の書き方を身につけられます。 なお、ゼミ履修者の様子を見ながら教員が判断し、食事会や他学年との交流会なども行います。たくさんの人との交流から、コミュニケーションスキルを磨くとともに、様々な考え方を知ってください。
実務経験との関連性	

授業時間外の学習	
【予習】時間・内容	2時間。輪読（選定した本を履修者が順番に読んで担当箇所について発表し、分からないことについて調べ、疑問や考えを皆で議論すること）の準備として、指定された文献を読み、発表資料を作成してください。方法はゼミの中で説明しますので、安心してください。これまで1人では読んだことのないような難しい本も、みんなで読めば1冊読み切ることが出来る、という大学生の学びの面白さを体験してください。
【復習】時間・内容	2時間。輪読で扱った箇所で見つかった疑問点を調べてきてください。次の週、みんなで疑問点についてディスカッションします。

成績評価	
評価基準・方法	履修者本人が担当する輪読の発表や、レポート作成についての、取り組みの姿勢や内容（50%） 授業内での発言や議論など、ゼミ全体への参加の姿勢や態度（50%）  ※皆勤が原則ですので「出席」自体は評価の対象としないとともに、どのような理由の欠席についても咎めません。ただし、授業内での発言や議論など、ゼミに積極的に参加することが必須です。また、ゼミの運営に影響しますので、無断欠席は厳禁です。社会に出ていく準備段階として、大人のマナーも身につけてほしいと思います。
フィードバック方法	輪読の発表資料や、レポート課題については、適宜講評をおこないます。半年間かけて、創意工夫のある資料やレポートが書けるようにアドバイスをします。

アクティブラーニング	
実施の有無	○
実施内容	ディスカッション、ディベート/グループワーク/プレゼンテーション

教科書/参考書	以下の書籍の中から、教員が選定します。自分の分の書籍を各自購入してもらいますので、心づもりをしておいてください。  森岡孝二（2015）『雇用身分社会』岩波新書。 森岡孝二（2013）『過労死は何を告発しているか 現代日本の企業と労働』岩波現代文庫。 高橋祐吉・鷲谷徹・赤堀正成・兵頭淳史（2016）『図説 労働の論点』旬報社。 久原穂（2018）『「働き方改革」の嘘 誰が得をして、誰が苦しむのか』集英社新書。 今野晴貴・嶋崎量（2018）『裁量労働制はなぜ危険か 「働き方改革」の間』岩波書店。 筒井淳也（2015）『仕事と家族 日本はなぜ働きづらく、産みにくいのか』中公新書。 労働政策研究・研修機構（2018）『非典型化する家族と女性のキャリア』労働政策研究・研修機構。 岩田正美（2007）『現代の貧困 ワーキングプア/ホームレス/生活保護』ちくま新書。 唐鎌直義（2012）『脱貧困の社会保障』旬報社。 阿部彩・鈴木大介（2018）『貧困を救えない国日本』PHP新書。 岩永理恵・卯月由佳・木下武徳（2018）『生活保護と貧困対策 その可能性と未来を拓く』有斐閣。 以上の他、このゼミにふさわしい書籍が新しく出版された場合は、その書籍を選定することもあります。  また、大学での学び方を知るための参考文献として、近田政博（2013）『学びのティップス』玉川大学出版部。
---------	---

<p>受講上の留意点等</p>	<p>大学での学びの重要な点は、“自分からつかみ取ろう”とする姿勢です。とくにゼミナールでは、教員が一方向的に講義を行う授業とは異なり、履修者の取り組みが、ゼミの運営に大きく影響します。ゼミの主役はゼミ生のみなさんであり、ゼミはみなさんが自分の意見や疑問をみんなと話す場です。履修者のみなさんの個性が、ゼミの色を作っていくといっても過言ではありません。このゼミでは、誰かと協力して勉強することを楽しみたいと思っているみなさんの履修を期待します。大事なことは、何事に対しても「なぜ？」をたくさん考え、そして、とにかく恥ずかしがらずにいっぱいしゃべることです。堀川の専門分野は、経済学（特に労働問題、社会保障・社会福祉、日本経済史）、ジェンダー、セクシュアリティに関するものです。4年生での卒業論文作成に当たり、これらの学問に興味を持っている人を歓迎します。</p> <p>ゼミをはじめとして、大学での学びには、答えがない問い、もしくは答えが1つではない問いがたくさんあります。また、その答えがすぐにはわからず、もしかすると大学を卒業してから初めてわかるような難問もたくさんあります。4年間の間に、そのような難問に1つでも多くぶち当たってください。</p> <p>本ゼミでは、輪読の仕方や、発表の仕方など、大学での学び方の基礎をゆっくりとじっくりと履修生みんなで学んでいきますので、履修前の段階で分からないことがあっても心配はいりません。“チャレンジ”が好きな人、“チャレンジ”に躊躇しない人の履修を期待します。また、今まではあんまり人と話したり、議論したりするのは得意ではなかったという人でも、「話してみたい」「議論してみたい」という意思があれば、是非履修してみてください。「自分も〇〇してみたい！」の気持ちをもつ人を歓迎します。</p> <p>※授業内で、数回、Webex等を用いた遠隔授業を実施します。具体的な日程は授業内で説明します。</p>
<p>JABEE</p>	

科目名	国際研究ゼミナール2	単位数	2単位	学期	後期
担当教員	小山田 紀子		実務経験の有無		×
科目区分	カリキュラムマップを表示する		関連するディプロマポリシー		
ナンバリング	X-21-B-2-310004		国際学部A：グローバルな課題に批判的な問題意識をもち、国境を超えた個別具体の問題への認識を深める国際教養および研究手法を体得していること		
授業の目的・テーマ	<p>激動の中東を読み解くーなぜテロ事件は多発するのかー</p> <p>日本の外国人と多文化共生について考える</p> <p>以上2つのテーマを取り上げる。</p>				
内容	<p>2015年、フランスで2つのテロ事件が起こった。それに先立つ2005年のパリ郊外の移民暴動とは異なる事件である。この10年間にフランス社会はどう変わったのか。フランスという国の歴史と現在を、フランス帝国主義の歴史と移民問題を中心に考える。</p> <p>第2に、2011年1月に勃発したチュニジアのジャスミン革命とその後の中東諸国での「アラブの春」と呼ばれる民主化のうねりをたどる。しかしそれは現在シリア内戦とイスラム国の出現という事態に立ち至っている。シリア内戦はアサド政権と反体制派、さらに過激派組織ISの3つどもえのアクターが複雑な戦闘状況を生み出しており、シリアから大量の難民がヨーロッパに押し寄せている。このような中東の混迷状況は2001年の9.11事件とその後アメリカによる対テロ戦争（イラク戦争）にまで遡らなければならないであろう。</p> <p>最後に、以上のような中東とヨーロッパの歴史的対立の構図から生み出されている国際社会の問題は、日本とはどのようにかかっているのだろうか。日本という国についても考えてみたい。</p> <p>1. フランス帝国主義とテロリズム</p> <p>2005年秋の移民暴動</p> <p>2015年1月シャルリ・エブド事件</p> <p>11月パリ同時多発テロ</p> <p>2. 2011年「アラブの春」ーその後</p> <p>チュニジアのジャスミン革命</p> <p>エジプト</p> <p>リビア</p> <p>シリア内戦</p> <p>3. イスラム国（過激派組織IS）の出現とその背景</p> <p>4. 日本の外国人労働者問題（移民政策）ーフランスの移民問題との比較</p> <p>毎回の予習・復習に、合わせて4時間相当の課題を提示し、その成果を提出してもらいます。</p> <p>第1回目のゼミで、テキスト輪読のための各自の報告分担を決める。毎回、報告者は担当個所のレジюмеを用意して配布し発表する。報告の当たっていない学生もテキストを読んできて、必ず1回は質問や意見を述べ議論に参加する。各テキストを読み終える毎に、レポートを作成し提出してもらおう。</p>				

学修到達目標	今日の世界の人の移動に焦点を合わせ、その動態と問題点を明らかにしていく。
実務経験との関連性	

授業時間外の学習	
【予習】時間・内容	予習はテキストを読んでくること（2時間）。
【復習】時間・内容	復習はゼミで読んだことや議論したことを踏まえて、問題を整理して自分の考えをノートにまとめておく（2時間）。

成績評価	
評価基準・方法	ゼミでの報告内容、レポート、出席状況、ゼミ活動に意欲的に取り組んでいるか等により総合的に評価する。
フィードバック方法	レポートの講評を発表する。

アクティブラーニング	
実施の有無	○
実施内容	実習、実技、実験、フィールドワーク

教科書/参考書	<p>1. 谷川稔・渡辺和行編著『近代フランスの歴史-国民国家形成の彼方に』ミネルヴァ書房 J-F. ゲイロー、D. セナ、私市正年訳『テロリズム 歴史・類型・対策法』白水社（文庫クセジュ）2008年 山本三春『フランス ジュネスの反乱』大月書店、2008年。 パトリック・フォール・ジャン・フィリップ 著、小林修訳『ジダン-物静かな男の肖像』阪急コミュニケーションズ、2010年 鹿島茂ほか編『シャルリ・エブド事件を考える』白水社、2015年</p> <p>2. 宮治一雄・宮治美江子編著『マグリブへの招待-北アフリカの社会と文化-』学図書出版 バンジャマン・ストラ著、小山田紀子・渡辺司訳『アルジェリアの歴史』明石書店 水谷周『アラブ民衆革命を考える』国書刊行会 酒井 啓子 編著 『〈アラブ大変動〉を読む-民衆革命のゆくえ』東京外国語大学出版会</p> <p>3. 常岡浩介『イスラム国とは何か』旬報社、2015年 別府正一郎、小山大祐『ルポ過激派組織IS-ジハードリストを追う-』NHK出版、2015年7月</p> <p>4. 依光正哲編著『日本の移民政策を考える-人口減少社会の課題-』明石書店、2005年 陳 天璽『無国籍』新潮社、2005年 根本かおる『日本と出会った難民たち 生き抜くチカラ、支えるチカラ』英治出版 2013年 櫻井 隆『日本と出会った難民たち 生き抜くチカラ、支えるチカラ』英治出版 2013年</p>
---------	--

受講上の留意点等	<p>今世界で何が起きているのか、そしてそれは私たちの生活とどのように関わっているのか、この二つの問題を結びつけて考えたいと思っている人はこのゼミを選択してほしい。政治・経済・社会のあらゆる分野でグローバル化が進む現代にあって、私たちは世界各地で起きていることに無関心ではありえないはずだ。毎日、新聞やテレビなどから送られてくる世界の情報を敏感にキャッチする眼を養い、私たちの生きていく道をひとりひとり考えてみよう。</p>
JABEE	

科目名	国際研究ゼミナール2	単位数	2単位	学期	後期
担当教員	臼井 陽一郎		実務経験の有無		×
科目区分	カリキュラムマップを表示する	関連するディプロマポリシー			
ナンバリング	X-21-B-2-310004	国際学部A：グローバルな課題に批判的な問題意識をもち、国境を超えた個別具体の問題への認識を深める国際教養および研究手法を体得していること			
授業の目的・テーマ	<p>ジョン・ダワー『敗北を抱きしめて』とサミュエルズ『3.11震災は日本を変えたのか』を読む</p> <p>日本について考えるための専門書を講読します。上記二冊はどちらも名著です。じっくりと読み込んで、日本の現在のあり方を考え抜いていくための思考の基礎を、このゼミで築いていこうと思います。</p> <p>以上の専門書講読をベースにしつつ、その他に、大学で学習を進めていくための思考のあり方について反省的に考え抜いていくためのさまざまなグループワークを実施します。また文章を書けるようになるために、文体を意識し磨いていくためのトレーニングも用意します。</p>				
内容	<p>毎回、3~4人が順番に担当ページを紹介し、読み手としての視点を提示したうえで、討論者2~3人が問題提起していくという、オーソドックスな輪読にしていきます。必要に応じて、教員が解説していきます。</p> <p>授業で取り上げたテキストのカ所について、毎回400字でコメントする文体トレーニングも実施します。</p>				

学修到達目標	日本の現在のあり方を考え抜いていく思考の基礎を獲得すること。
実務経験との関連性	

授業時間外の学習	
【予習】時間・内容	指定テキストの読みおよび400字課題。2時間ほど。
【復習】時間・内容	指定テキストの読みおよび400字課題。2時間ほど。

成績評価	
評価基準・方法	テキスト指定カ所へのコメントをプレゼン 50% そのコメントを400字で文章化 50%
フィードバック方法	毎回授業後にゼミLINEグループに講評を掲載。

アクティブラーニング	
実施の有無	○
実施内容	反転学習／ディスカッション、ディベート／グループワーク／プレゼンテーション

教科書/参考書	ジョン・ダワー 『敗北を抱きしめて』 R・J・サミュエルズ 『3.11震災は日本を変えたのか』
---------	--



受講上の留意点等	教員が解説します。基礎知識は必要ありません。ゼミは、自分のことばで感じたこと、考えたことを表現するトレーニングの場だと、意識してみてください。
JABEE	

科目名	国際研究ゼミナール2	単位数	2単位	学期	後期
担当教員	熊谷 卓	実務経験の有無		×	
科目区分	カリキュラムマップを表示する	関連するディプロマポリシー			
ナンバリング	X-21-B-2-310004	国際学部A：グローバルな課題に批判的な問題意識をもち、国境を超えた個別具体的問題への認識を深める国際教養および研究手法を体得していること			
授業の目的・テーマ	「法的な思考（リーガル・マインド）を深化させよう！」				
内容	<p>ゼミの内容(目的も含む)：</p> <p>賃貸借契約、遺言、黙秘権、表現の自由、条約、ということばに共通するものはなにか、と問われれば、なんと答えるだろうか？「法」とか「ルール」という答えを想定することができるとは思わないだろうか。より細かく見れば、それぞれ民法（借地借家法）、刑法（刑事訴訟法）、憲法、国際法といった具合に。そして、われわれは実は様々な場面でこの法と関わっていることができる。</p> <p>ところで、ほとんどのみなさんは民法法として刑事法的にみて、「未成年」最後の年に2年次生ゼミナールに参加することになると思う。その翌年には、およそすべての法律の容赦ない適用対象となってしまう。そのため、原則として、もう少年（少女）Aではない。その前にできるかぎり、法というものの考え方に接しておくことは決して無駄ではないと、思うのであるが、どうであろうか？</p> <p>そこで、このゼミナールは、各ゼミ生の法的な思考をより深めてもらうことを主要な目的とする（それは同時に3／4年次ゼミナールへの橋渡しとなる）。</p> <p>具体的にいうと、次の二つのテーマ、</p> <p>①性同一性障害者をめぐる問題（自己と異なる他者に対する配慮とは）および</p> <p>②死刑廃止の是非に関する問題（責任の取り方とは）</p> <p>について、じっくりと、深く検討する予定である。</p> <p>さらに、</p> <p>男女区別の是非（レディース・デイとは男性に対する差別か、適法か）、</p> <p>美容整形に納得がいかないときの慰謝料（美の基準とは、医療過誤とは）、</p> <p>児童の権利などの問題についても検討し、ゼミ生とともに議論をしたいと思う。</p> <p>さらに、時間が許せば、これまで滞っていたニュージーランドのことやゼミ学生の希望に応じて、英語（洋楽を聞き、その歌詞から学ぶとか）および初級のフランス語に親しむべく、英語やフランス語を少し学習することもあるかと思う。</p> <p>上記のテーマに関して、ゼミ生のなかから報告者とコメントを決める。彼らの議論を土台としてその他のゼミ生はテーマにつき、理解を一層深め、議論を進める。</p> <p>レポートの提出も適宜求める。</p> <p>なお、報告のやり方、レポートの書き方についても、十分に時間をかけて説明をする予定です。安心してください。</p>				

学修到達目標	本ゼミを通じて当該学年の学生に求められるスキルが十分に身につく。
実務経験との関連性	

授業時間外の学習	
【予習】時間・内容	各回のテーマ（アウトライン）について十分に予習（1時間）のこと
【復習】時間・内容	各回のテーマ（アウトライン）について十分に復習（1時間）のこと

成績評価	
評価基準・方法	報告やレポートの良し悪し（50パーセント）、ゼミへの参加度（単に出席しているという意味ではない）（50パーセント）を基準に成績をつける。
フィードバック方法	質問については遠慮なく聞いてください。 レポートや課題についても個人的な指導をします。

アクティブラーニング	
実施の有無	○
実施内容	ディスカッション、ディベート

教科書/参考書	別途指示する。教科書販売にて事前に購入し、初回ゼミに持参ください。
---------	-----------------------------------

受講上の留意点等	<p>「内容」からすると、「面白そうな」（気楽な）ゼミに見えると思いますが、「面白い」と感ずるかどうかは、皆さんの勉強量にかかっています。</p> <p>「法律は面白い」と感ずるまでにはハードワークが要求されます。それでもよい、という人を歓迎します。どうぞよろしくお願いたします。</p> <p>食事会を行うことがあります（飲み会はできませんから（笑））。</p>
JABEE	

科目名	国際研究ゼミナール2	単位数	2単位	学期	後期
担当教員	越智 敏夫	実務経験の有無		×	
科目区分	カリキュラムマップを表示する	関連するディプロマポリシー			
ナンバリング	X-21-B-2-310004	国際学部A：グローバルな課題に批判的な問題意識をもち、国境を超えた個別具体の問題への認識を深める国際教養および研究手法を体得していること			
授業の目的・テーマ	「現代の社会問題と私たち」（前期・後期同一テーマ）				
内容	<p>国際研究ゼミナール1・2は基礎ゼミナールの延長線上にあると僕は考えています。ものを読み、考え、議論し、それを文章にまとめるという作業は基礎演習と同じです。しかしこのゼミで中心になるのは基本的な読解力を前提とした上での議論です。</p> <p>今年度の細かいテーマは未定です。ただし「現代社会は多くの問題をかかえていて、その多くの問題と人間一人ひとりが生きにくいという事実は関連している」という基本的認識をはずれることはありません。特に先進資本主義国に特有の諸問題を取り扱う予定ですが、どんな事例を議論するときにも他人事としてではなく自分の問題として考えることを要求します。</p> <p>たとえば現在、世の中で多くの人が殺されています。その「殺人」という行為には変わりがなくても、それら多くの殺人を私たちは細かく差異化していきます。テロリストによる虐殺、法治国家における死刑、正当な防衛行為、教育の「行き過ぎ」としての体罰、英雄的戦功、医療過誤、テロ根絶のための必要悪、反逆者の処刑、武装蜂起に対する秩序維持……など、呼び方はいろいろです。しかしすべての行為が「人が人を殺す」という点においては同じです。こうした呼称の差異という問題は、そのままそれらの人殺しという行為と私たちの関係を明らかにしていくはずで、その関係の総体が現代社会を構成していると考えられませんか。</p> <p>こうしたことについて「そんなもん知るか。全部違うのは当たり前だろ」と言って開き直るのは、現在の社会のありかたをまったく批判していないということです。目の前の世界を「快適」だと思いこんでいるということで、それは実は何も考えてないということを表明しているだけです。酸素を吸って二酸化炭素を吐いているだけです。マレーシアの森林資源のためにはなっているでしょうが、人生の意義は限りなく低いでしょう。何かを考えて1日生きるのと、何も考えずに5万年生きるのを比較すれば、それは前者のほうがはるかに人間として意義深いと僕は考えます。</p> <p>毎回の予習・復習に、合わせて4時間相当の課題を提示し、その成果を提出してもらいます。</p> <p>テキストを全員で講読します。全体の進行を担当する「司会」、内容の要旨を報告する「レポーター」と、その内容を批判する「コメンター」を中心に議論を進めます。ゼミ生はこのみつつの役割を順番に担当します。各テキストの読了後にはそのテーマについてのレポートを書いてもらいます。</p>				

学修到達目標	テキストを読んだうえで自分の考えをまとめ、誰かにていねいに伝え、その反応について理解できるようにする。
実務経験との関連性	

授業時間外の学習	
【予習】時間・内容	2時間 テキストの事前講読と意見の整理
【復習】時間・内容	2時間 ゼミナールでの議論の総括と意見のさらなる整理

成績評価	
評価基準・方法	出席を重視します。各セメスター2回までは欠席しても単位を出します。3回以上欠席すると単位は出ません。欠席の理由は問いません。バイトでも風邪でも、欠席は欠席です。
フィードバック方法	LINEなどの意見交換ツールなどにより、ゼミナール終了後もフィードバックを常に維持する。

アクティブラーニング	
実施の有無	○
実施内容	ディスカッション、ディベート/グループワーク/プレゼンテーション

教科書/参考書	田中克彦 『ことばと国家』 岩波新書 鶴見俊輔 『戦時期日本の精神史』 岩波書店 小倉千加子 『セックス神話解体新書』 ちくま文庫 フロム 『自由からの逃走』 東京創元社 杉田敦 『デモクラシーの論じ方』 ちくま新書 以上を候補としていますが、初回に参加者と相談して決定します。
---------	--

受講上の留意点等	<p>自分をだまさないことです。大学生活を言い訳の多い4年間にしてしまうと、それは癖になります。その後の人生でも同じ状況が続く危険性は高いでしょう。ですから本当は遊びたいのにきついゼミを選んだりすれば、教師も学生もお互い不幸になるのは明らかです。そしてこのゼミはきついゼミです。そこをよよく考えてください。勉強したい人、議論したい人にとっては意味のあるゼミにしたいと考えています。</p>
JABEE	

科目名	国際研究ゼミナール2	単位数	2単位	学期	後期
担当教員	澤口 晋一	実務経験の有無		×	
科目区分	カリキュラムマップを表示する	関連するディプロマポリシー			
ナンバリング	X-21-B-2-310004	国際学部C：新潟の地域社会にあって学術的素養を日々にかかす方途をたえず摸索する強い意欲をもち、これを具体化していくための社会関係構築能力を獲得していること			
授業の目的・テーマ	<p>本学の2～4年のゼミ名称である国際研究ゼミナールでは、国際理解、異文化理解、国際情勢、政治・経済といった、いわゆる「国際学」と呼ばれる分野のことを学ぶ、ということが目的となっています。</p> <p>この「国際学」と対をなすのが「地域学」と呼ばれる分野です。聞いたことがある人は少ないでしょうね。「地域学」とは、ある地域のこと、もっとわかりやすく言えば、自分の生まれ育った、あるいは自分が暮らしている、その地域のことを様々な視点から調べ、考え、理解する、そういう分野です。私は、国際学を勉強するうえで基本となるものが実は、逆説的ですが「地域学」だと思っています。自分の生まれ育った地域が「どういうところ」なのかを理解もせず、国際理解、異文化理解など可能であるはずがない、そう思いませんか。</p> <p>ところで、派遣留学から帰ってきた学生の多くが必ず口にするのは何だと思いませんか。それは「新潟のことをもっと勉強してから行くんだっ！」の一言です。どういうことかという、留学先で日本人以外の学生と少し親しくなると必ず聞かれるのが、「あなたの住んでいる新潟のことを教えて」、なのだそう（当たり前ですね）。ところが、それに応じて何か語ろうとしても何も語れないという自分があることにそこで初めて気がつくのだそうです。そしてそのことが本当に情けなかつたと言うのです。このエピソードは、国際・異文化理解の根底が、実は自分の生まれ育った地域・地元の理解であるということをよく示しています。このゼミを通じて、いつでも、どこでも、誰とでも新潟のことを深く語れる基本力を身につけましょう。</p> <p>このゼミでは新潟の地理に関連した1000字程度の解説文を題材として、その内容をさらに詳細に調べ、パワーポイントにまとめ、プレゼンするまでの力を養うことを目的とします。新潟のことを知ると同時に、情報整理力、論理的思考力、パワーポイントの効果的な作成スキル力が養われます新潟県外の出身者には、この機会に新潟のことを多角的に知ってもらいたい機会にもなります。</p>				
内容	<p>ゼミや卒論指導で学生と接して毎年強く感じることは、今の学生は（昔からそうだったのかもしれないが）「自分で調べる力が圧倒的に弱い（あるいはその気力がない）」、ということです。テキストを講読しても書かれてある文章を短くして言うだけで、それはどういうこと？と問うとほとんど何も答えられない。つまりわかっていないのである。説明するということはどういうことか理解できていないのである。これでは講読（発表）自体が無意味である。</p> <p>このゼミでは、新潟に関する地理的事象を1000字ほどで記述した簡略な文章の中からより深く調べられる記述を複数選定してもらい、それをできる限り詳しく調べなおして、発表するというものです。そのために時間をかけて色々な資料を探しだししてもらいます。その資料を内容に応じて加工し、資料にものを言わせる形で整理しまとめてもらいます。発表までに私との個々のやり取りを最低でも3回行い、内容をより深く充実したものとしていきます。このような過程を通じて、資料の扱い方とプレゼンの方法を学んでもらいます。</p> <p>1回のゼミで2人発表。発表には必ずパワーポイントを使用します。</p> <p>毎回の予習・復習に、合わせて4時間相当の課題を提示し、その成果を提出してもらいます。</p>				



学修到達目標	①各種資料の検索・収集力. ②資料の読解, 分析力. ③情報整理, 論理的構成方法. ④センスの感じられるパワーポイントの作成とプレゼン方法. 以上4点について, 学び修得することを目標とする.
実務経験との関連性	

授業時間外の学習	
【予習】時間・内容	2時間以上（発表用のパワーポイント作成と当該項目の要約および質問設定）.
【復習】時間・内容	2時間以上（発表に対する質疑に際して, 不十分な応答となった点を調べなおし, その内容を加味したパワーポイントに修正し, レポートを作成する）.

成績評価	
評価基準・方法	取り組み姿勢, 発表内容, レポートにより評価.
フィードバック方法	個別指導を通じて, 勉強し調べてきたことに対してコメントし, それをプレゼンテーション内容を練り上げていく.

アクティブラーニング	
実施の有無	○
実施内容	PBL（課題解決型学習）／プレゼンテーション

教科書/参考書	鈴木郁夫・中田 勝・田中和徳『新潟ものしり地理ブックⅡ』新潟日報事業社. 2013年.
---------	---

受講上の留意点等	<p>地理的な事項に興味・関心のある人が望ましいが、それ以外でも調べる力を身につけ、パワポで発表するというスキルを身につけたい人。</p> <p>上述したように、発表は全員パワーポイントを使用します。今は、企業でも官公庁でも会議等での報告はほぼパワーポイントを使用します。効果的でわかりやすいパワーポイントの作成技術が誰にでも求められています。パワポを否定的にとらえる教員もまだいますが、それは時代錯誤とっていいでしょう。パワポの発明と浸透によって、少なくとも理系・情報系の分野のプレゼンは革命的に変わったとって過言ではありません。このゼミでは、どうやって効果的なパワポ画面を作成し、それをどう使いながらプレゼンするのか、といったことも、個々に丁寧に指導します。</p>
JABEE	

科目名	国際研究ゼミナール2	単位数	2単位	学期	後期
担当教員	瀬戸 裕之		実務経験の有無		×
科目区分	カリキュラムマップを表示する		関連するディプロマポリシー		
ナンバリング	X-21-B-2-310004		国際学部A：グローバルな課題に批判的な問題意識をもち、国境を超えた個別具体的問題への認識を深める国際教養および研究手法を体得していること		
授業の目的・テーマ	東南アジアについて学ぼう-地域形成と日本とのつながり-				
内容	<p>本ゼミでは、東南アジアの地域形成を学びながら、日本とアジアについて考えることを目的とします。</p> <p>東南アジアは、現在、世界の中でも経済発展が目覚ましい地域であり、日本企業も多く進出しています。また、毎年、多くの観光客が訪れており、日本との関係が深い地域です。さらに、ASEAN共同体など国境を超えた経済協力が進みつつあり、今後の展開が注目されています。</p> <p>一方で、東南アジアの多くの国が、かつて植民地として外国に支配された経験があり、1990年代になるまで冷戦下で激しい戦争を経験した紛争地域でした。さらに、冷戦後に経済発展が進みつつも、民主化や人権の保障には、まだ多くの課題を抱えています。</p> <p>今後、東南アジアは、どのような方向に発展していくのでしょうか。また、日本は、それにどのようにかかわっていくべきなのでしょうか。安全保障や経済関係という視点を超えて、東南アジアとの間でより深い関係をつくるためには、東南アジアがどのように形成されてきたのか、日本と東南アジアがどのような位置づけにあるのか、という点について、長期的な視点から考えてみるのが重要であると考えます。</p> <p>本ゼミでは、東南アジアに関する本（新書）を一緒に読みながら、東南アジアの地域形成と日本とのつながりに関する理解を深めたいと考えています。</p>				

学修到達目標	後期ゼミの前半では、岩崎育夫著『入門 東南アジア近現代史』（講談社現代新書）を読みます。学生の間で担当を決めて、担当する部分についてレジュメを作成して発表してもらいます。その後、学生の間で質疑応答を行います。後半は、学生がグループに分かれて、関心があるテーマについて調べて、発表してもらいます。この作業を通じて、東南アジアの地域形成や東南アジアと日本の関係に関する基礎知識を得ると同時に、ゼミ発表を通じて、プレゼンテーションの方法について身につけることができます。
実務経験との関連性	

授業時間外の学習	
【予習】時間・内容	2時間。ゼミで行う活動について、関連する情報を事前に調べ、目的と課題を理解する。
【復習】時間・内容	2時間。ゼミで行った活動の要点を整理し、資料を読み直して復習する。

成績評価	
評価基準・方法	学生によるゼミへの参加と報告内容に基づいて成績を出します。具体的には、(1)ゼミへの出席・授業態度(25%)、(2)担当した章に関する発表内容と取り組みへの姿勢(50%)、(3)ゼミでの発言やディスカッションへの参加(25%)、に基づいて評価します。
フィードバック方法	ゼミの各回において学生が行う発表に対して教員がコメントし、改善点を指摘し、解説を行います。

アクティブラーニング	
実施の有無	○
実施内容	ディスカッション、ディベート/グループワーク/プレゼンテーション

教科書/参考書	岩崎育夫著『入門 東南アジア近現代史』（講談社現代新書）、講談社、2017年。 ※受講者には、必ず購入してもらいます。
---------	--

受講上の留意点等	できるだけ欠席をせずに参加して、ゼミ仲間や教員との交流とディスカッションを深めてください。
JABEE	

科目名	国際研究ゼミナール2	単位数	2単位	学期	後期
担当教員	山田 裕史	実務経験の有無		○	
科目区分	カリキュラムマップを表示する	関連するディプロマポリシー			
ナンバリング	X-21-B-2-310004	国際学部A：グローバルな課題に批判的な問題意識をもち、国境を超えた個別具体の問題への認識を深める国際教養および研究手法を体得していること			
授業の目的・テーマ	市民による国際協力・SDGsの実践				
内容	<p>国際協力について学ぶゼミです。</p> <p>国際協力は、何のために、誰が、どのように行うものなのでしょうか。また、グローバル化が進んだ世界に生きる市民として、私たち一人ひとり、日常生活のなかでどのように国際協力を実践できるのでしょうか。このゼミでは、国際協力に関する文献やドキュメンタリー、ワークショップを通じて、これらの問いについて考え、議論します。</p> <p>今年度は、とくに「持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals: SDGs）」について基礎から学びます。SDGsとは、貧困や気候変動、人種やジェンダーに起因する差別などの地球規模の問題・課題を、国際社会が協力して2030年までに解決しようとするものです。SDGsは、よりよい未来を目指すための世界共通の17の目標で構成されています。このゼミでは、単にSDGsに関する知識を身に付けるだけでなく、実際に一人ひとりが自分にできること、できそうなことからSDGsに取り組むことを目指します。</p> <p>また、このゼミでは、3年次以降の卒業論文の執筆に不可欠な、学びの技法をしっかりと身に付けます。具体的には、研究テーマの決め方、図書館での文献・資料など情報の探し方、プレゼンテーションの仕方、レポートの書き方などを学びます。学期末には、各自テーマを決め、ゼミ発表とレポート執筆を行います。このゼミでしっかり学べば、卒業論文の書き方がわからない、というようなことにはならないはずですよ。</p> <p>このゼミでは、ほぼ毎回、3～4人の少人数のグループにわかれて、アクティブ・ラーニング型の授業を行います。つまり、いつも一緒にいる友達以外にも、たくさん会話や対話することになります。コミュニケーションが苦手という人もいますが、社会に出たら、いつも気の合う人とだけ一緒にいることはできません。このゼミは、コミュニケーション能力を高めるというトレーニングも兼ねています。最初は緊張すると思いますが、心配はいりません。一人ひとりが安心して参加できるような雰囲気をつくっていきます。</p>				

学修到達目標	国際協力・SDGsに関する基礎知識を身につけ、日常生活のなかで実践できる。 3年次以降の卒業論文の執筆に不可欠な、学びの技法が身につく。
実務経験との関連性	国際協力NGOでプロジェクトに従事した経験を授業内容に反映する。

授業時間外の学習	
【予習】時間・内容	2時間。テキストの指定箇所を精読する。
【復習】時間・内容	2時間。テキストの不明点を理解する。

成績評価	
評価基準・方法	(1) 出席、(2) グループ・ワークやグループ・ディスカッションへの貢献度、(3) グループ発表、(4) 期末レポート、をもとに総合的に評価します。
フィードバック方法	グループ発表に対するフィードバックとして、評価シートにもとづく講評を行います。

アクティブラーニング	
実施の有無	○
実施内容	ディスカッション、ディベート/グループワーク/プレゼンテーション/実習、実技、実験、フィールドワーク

教科書/参考書	南博・稲場雅紀『SDGs-危機の時代の羅針盤』岩波新書、2020年 仲村和代・藤田さつき『大量廃棄社会-アパレルとコンビニの不都合な真実』光文社新書、2019年 国際協力の具体的なテーマについて把握するには、以下の書籍に目を通しておくことを勧めます。 一般社団法人 Think the Earth『未来を変える目標：SDGs アイディアブック』紀伊國屋書店、2018年 内海成治編『新版 国際協力論を学ぶ人のために』世界思想社、2016年
---------	---

受講上の留意点等	<p>後期開講科目の「国際協力論」を履修済みであるか、または本ゼミとあわせて履修することを勧めます。</p> <p>ゼミで国際協力やSDGsについて学ぶだけでなく、それを実践したいという、意欲ある学生たちの履修を歓迎します。本学には、先進国と途上国の食の不均衡の問題に取り組むTFT-NUISや、フェアトレード推進団体NUIS FT、SDGs推進団体Rainbow World Projectなどの国際協力・SDGs推進団体があり、このゼミで学んだ学生たちが中心となって国際協力やSDGsを実践しています。また、学外でも、万代アースフェスタへの出展、新潟の国際協力NGOが一堂に会する国際協カイベントの企画や運営、岩室地域でのローカルSDGsの実践などに取り組んでいます。ぜひ一緒に活動しましょう。</p>
JABEE	